

6月11日(日) 第二礼拝 「イスラエルに与えた約束」 エゼキエル 36 篇 22-28 節

私たちの神様は、永遠の神様、全知全能の神様、この天地を造られた創造主です。人間を造られた時に、神様は人間の墮落を見ておられ、人間を救うための計画も立ててくださいました。イエス様は女の子孫として生まれ、私たちの罪、咎、全てを背負って十字架にかけられ、葬られ、三日目に甦りました。イエス様は神と人との仲介者(和解の生贄)となられ、この方を信じることによって、私たちは神の子とされる特権が与えられました。(ヨハネ 1:12)

第一番目、アブラハムの霊的子ども達です。主がアブラハムに現れ、彼を義と認め救ってくださいました。そして、アブラハムが神様から受けた祝福は、イサクに継承されました。次に、イサクの信仰を受け継いだのはヤコブ(イスラエル)でした。このイスラエルの子孫達に、神様は聖書や神様の約束を与えてくださいましたが、後に、イスラエルはイエス様を拒んだため、その恵みが異邦人に回ってきました。そのため、私たちはただ恵みのゆえに、イエス様を信じる信仰によって、神の子とされる祝福を受けることができました。アブラハムは私たちの信仰の先祖となるのです。神様の願いは、私たちが自分の子ども達にも信仰の遺産、霊的祝福を継承し、子ども達が霊的にイエスキリストの系図の中に入っていくことです。ですから、私たちが子ども達に信仰を伝え、彼らのために祈っていくことが重要です。

第二番目、アブラハムの肉的な子孫、イスラエルに対する約束です。イザヤ 49:15-16 神様は、イスラエルへの初めの愛を忘れたことがなく、一人でも失うことを悲しまれ、見つけるまで探し出してくださるお方です。神様は、彼らを先祖に与えた地に帰らせ、神の民となり、神様が彼らの神となることを願っておられます。聖書には、ユダヤ人の祖国への帰還について 160 回(関連聖句では 700 回)言及されています。マタイ 5:18 その一つの約束の一点一角もすたれることなく、全て成就されるのです。イスラエルは国を失ってから全世界に散らされ、あらゆる所で酷い迫害(カトリックの十字軍やヒトラー等から)を受けてきました。そのため、ユダヤ人達は十字架に対して強い憎しみや怒りがあり、イエス様の聖なる名を汚してきました。しかし、そんな彼らに、本文 24 節「あなたがたを諸国の民の間から連れ出し、全ての国々から集め、あなたがたの地に連れて行く」と約束されています。

第三番目、エチオピア系ユダヤ人のアリヤー(ヘブル語『のぼる』の意味)です。1979 年から彼らの救出作戦が行われてきましたが、2022 年からジュール(岩)作戦を行っています。このジュール作戦の最後が、この教会の行う希望作戦です。アリヤーの目的は、本文 25-28 節、きよい水(イエス様の血潮)で罪がきよめられ、聖霊様が臨み、新しい心と新しい霊が与えられ、かたい石の心(自分達は選民だというプライド)が取り除かれ、肉の心(柔らかい心)となり、彼らが神様のおきてと定めを守り行うためです。そして律法の完成は愛です。キリストの十字架の愛を受けると、御霊によって心が柔らかくなり、人を赦し、人を受け入れられるようになります。エペソ 2:13-15 イエスキリストによって、隔ての壁が打ちこわされ、ユダヤ人クリスチャンと私たち異邦人クリスチャンが一つとされていくのです。アーメン!